



手作りおもちゃの ボランティア



この日はひもを引くとするすると上がる紙コップ製のこいのぼりを作りました。前列右から二人目が代表の青野さん

表紙の人は、子育てボランティアグループ「おもちゃづくり隊」代表の青野志津代さん(32)です。

「おもちゃづくり隊」は、「手作りおもちゃを通して、子育て家庭との触れ合いを持ちたい」という願いから生まれました。八人いるメンバーのほとんどは、市の子育てボランティア講習会を受講し、地域でボランティアとして活動している方々。今年二月の発足以来、月に二回のペースで活動しています。完成したおもちゃは、区内の児童会館を会場に毎週開かれてい

る「子育てサロン」などに置いて、子供たちに遊んでもらうなどの活用を考えているそうです。

「おもちゃづくり隊」の当面の目標は、今年の夏、区内四力所の公園を会場に開催される「子育て夏まつり」で、手作りおもちゃのコーナーに参加し、地域の親子との触れ合いを持つこと。「子育て夏まつり」は、地域の親子と、ボランティアをはじめとした地域の皆さんとのふれあい交流事業です。

「今はまだ、手作りおもちゃのレパートリーを増やしている段階ですが、今後は親子が一緒に作って、一緒に遊べるような集まりも開きたい」と青野さん。「市内で同様の活動を続ける団体とも連携を取って、少しずつ活動の範囲を広げて行きたいですね」とグループみんなの夢を話してくれました。

「おもちゃづくり隊」が活動の場としているのは、東保健センター一階の子育て情報室「タッピールーム」。タッピールームには、子育てボランティアの活動情報をはじめ、子育てに関する情報や資料がいっぱいです。子育ての質問や悩みにもお答えしています。ぜひ一度遊びに来てください。

ひくすとりー

馬車鉄道を敷設する

一八八八(明治二十一年)年、札幌と茨戸を結ぶ石狩街道が開通すると、馬車や人が物資を運んで通りました。

一九〇八(明治四十一年)二月、馬車鉄道(馬鉄)を石狩街道に敷設しようと、石狩町大字生振村(おやふるむら)会議員鳥羽熊三郎(とばくまきざぶろう)など十五人が要望書を政府に提出。敷設の目的は、篠路、花畔(はなわら)や前田農場(当時茨戸から花畔にかけてあった農場)で栽培されたアマ(亜麻)を帝國製麻株式会社へ輸送すること、沿道農家の雑穀や野菜を札幌へ輸送すること、札幌と石狩川の水運を結ぶことでした。

発起人代表の七條良實(しちじょうりやうじつね)は、一九〇九(明治四十二年)十一月に上京して政府に陳情し、翌月認可を得ます。一九一〇(明治四十三年)年六月、前年から敷設準備を進めていた札幌北馬車鉄道株式会社(さっぽろきたばしやでんどう)社は総会を開いて経営陣を決めました。



馬車鉄道(札幌停車場)

同年十月には北七条東一丁

第14回

馬車鉄道で行こう 札幌軌道(一)

目から前田農場前までの間十・一キロの単線を完成させます。軌道の幅は千六十七メートルでした。

活躍する馬車鉄道

一九一一年(明治四十四年)一月に運行の準備をしますが、積雪期を迎え、また運行に伴う問題解決を求め住民の要望を受けたので、本格的運行は六月に始まりました。当初は、客車五両、貨車二十両での営業でした。始発から終点まで所要時間は約一時間二十分。馬一頭で十八人乗りの客車や三トンの積みの貨車一両、五両を引きました。翌年一月には会社名を札幌軌道株式会社に改めます。九月には前田農場前から茨戸(はらと)までの〇・七キロを延長しました。

石狩や当別からの物資は馬鉄によって札幌へ次々と運び込まれました。馬鉄は物資の輸送に大切な役割を果たし、札幌の人たちの暮らしや経済を支える一端を担っていたのです。また、客車も石狩川の遊覧を楽しむ人たちが石狩浜へ行く海水浴客の足として利用されました。